

令和3年度

水生生物による水質の簡易調査の実施結果

中国地方整備局

調査状況 - 1

千代川水系 千代川 ふるいち 古市地点 (鳥取県)



千代川水系 袋川 まちやみずべのがっこう 町屋水辺の楽校地点 (鳥取県)



天神川水系 小鴨川 おがもばし 小鴨橋地点 (鳥取県)



日野川水系 日野川 くずも 車尾地点 (鳥取県)



斐伊川水系 宍道湖 っこうなぎさこうえん 空港なぎさ公園地点 (島根県)



斐伊川水系 神戸川 まきおおはし 馬木大橋地点 (島根県)



調査状況－2

斐伊川水系 斐伊川 きたかんだちばしかりゅう 北神立下流橋地点（島根県） 江の川水系 江の川 かつらちくみずべのがっこう 桂地区水辺の楽校地点（広島県）



江の川水系 馬洗川 ひさまつはし 久松橋地点（広島県）

太田川水系 太田川 あさおおはし 安佐大橋地点（広島県）



佐波川水系 佐波川 ほんばし 本橋地点（山口県）

佐波川水系 島地川 とくちしまじ 徳地島地地点（山口県）



1. 調査の目的

川底にどのような生物が住んでいるかを調べることにより、河川の比較的長い期間の水質の状態を知ることができます。

そのため、国土交通省と環境省では、それぞれ昭和59年度から「水生生物による水質の簡易調査」（以下「水生生物調査」という。）をはじめています。

水生生物調査は、誰にでも簡単に水質の判定ができるので、小学生を中心に、中学生、高校生等、多くの方々に参加していただき、私達の身近な存在である河川に対して、河川愛護や水質浄化等への関心を高めてもらうことも目的として実施しています。

2. 参加者数と調査地点数

中国地方の一級河川の64地点において、小学生を中心に、50団体、延べ2,116名の参加を得て実施

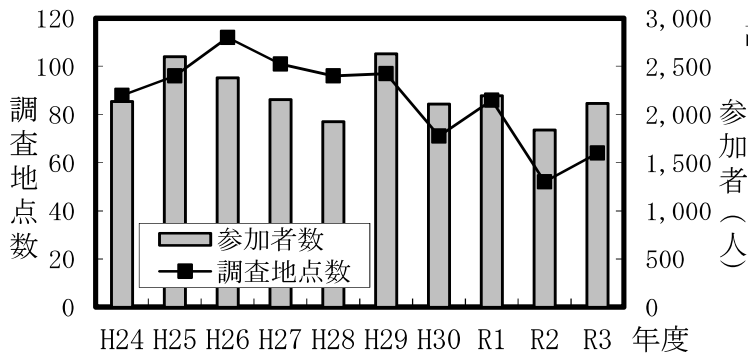


図-1 参加者数と調査地点数

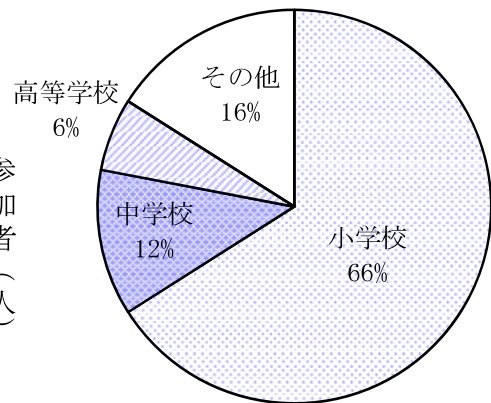


図-2 令和3年度 調査参加団体構成比

令和3年度の調査は、中国地方の一級河川の64地点において、6月から10月にかけて、50団体、延べ2,116人の参加を得て実施しました（P. 7 表-2 参照）。

多くの子供達に参加していただいたことで、大変貴重なデータを得ることができました。子供達にとっても、水に親しみながら調査をしたことで”きれいな川”に対する具体的なイメージを持っていただく機会になったと思います。

3. 調査の方法

水生生物調査は、国土交通省水管理・国土保全局編「川の生きものを調べよう～水生生物による水質判定～」に基づいて、川底に生息する水生生物を採取し、表－1に示す『水のきれいさ』の指標となっている生物の種類数と個体数により、川の水質状況を判定するものです。

表－1 水のきれいさの程度（階級）とその指標となる生物

きれいな水（階級Ⅰ）	ややきれいな水（階級Ⅱ）
ナミウズムシ ヒラタカゲロウ類 ヘビトンボ ヤマトビケラ類 アミカ類	サワガニ カワゲラ類 ナガレトビケラ類 ブユ類 ヨコエビ類
きたない水（階級Ⅲ）	とてもきたない水（階級Ⅳ）
タニシ類 ミズムシ ○ニホンドロソコエビ	シマイシビル ミズカマキリ ○イソコツブムシ類
	カワニナ類 コガタシマトビケラ類 ヒラタドロムシ類 ○ヤマトシジミ
	コオニヤンマ オオシマトビケラ ゲンジボタル ○イシマキガイ
	サカマキガイ アメリカザリガニ チョウバエ類
	エラミミズ ユスリカ類

注) ○は海水の少し混ざっている汽水域の生物

<階級の判定方法>

- ・調査地点毎に、見つかった個体数の多かった指標生物2種類（ただし、3種類の指標生物がほぼ同じ個体数であった場合は、最大3種類）に2点、それ以外の指標生物に1点をつける。
 - ・各階級毎に各指標生物の点数を合計する。
 - ・合計点数のもっとも多い階級をその地点の水質階級と判定する。
 - ・ただし、複数の階級が同点の場合は、水質の良い階級をその地点の階級とする。
- 例えば、階級Ⅰと階級Ⅱが同点の場合は階級Ⅰとする。

4. 調査結果概要

階級 I と階級 II に判定された地点が全体の95%

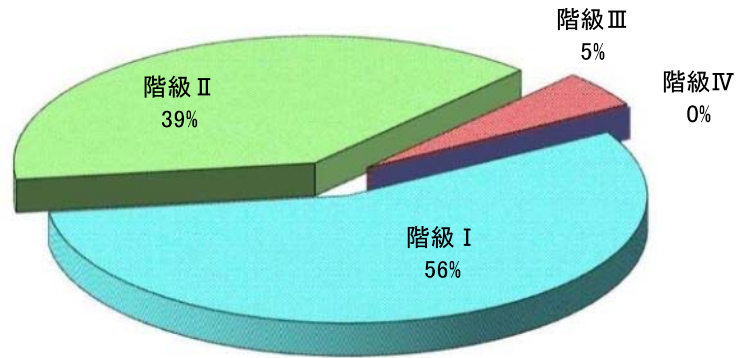


図-3 令和3年度 水質階級構成比

水生生物調査64地点の判定結果は、きれいな水（階級 I）が36地点、ややきれいな水（階級 II）が25地点、きたない水（階級 III）が3地点、とてもきたない水（階級 IV）が0地点でした。

きれいな水（階級 I）とややきれいな水（階級 II）に判定された地点が全体の95%であり、中国地方の一級河川の水質は概ね良好な状態でした。

今後も、水質の良好な状態を保つため、生活排水などが河川の水質に及ぼす影響について、関心をもっていただきたいと思えます。

中国地方の一級河川の水質は、良好な状態を維持

図-4は、過去10年間の水質階級を表したものですが、きれいな水（階級 I）とややきれいな水（階級 II）の比率は93～99%で推移しており、中国地方の一級河川の水質は、継続的に概ね良好な状態を維持しています。

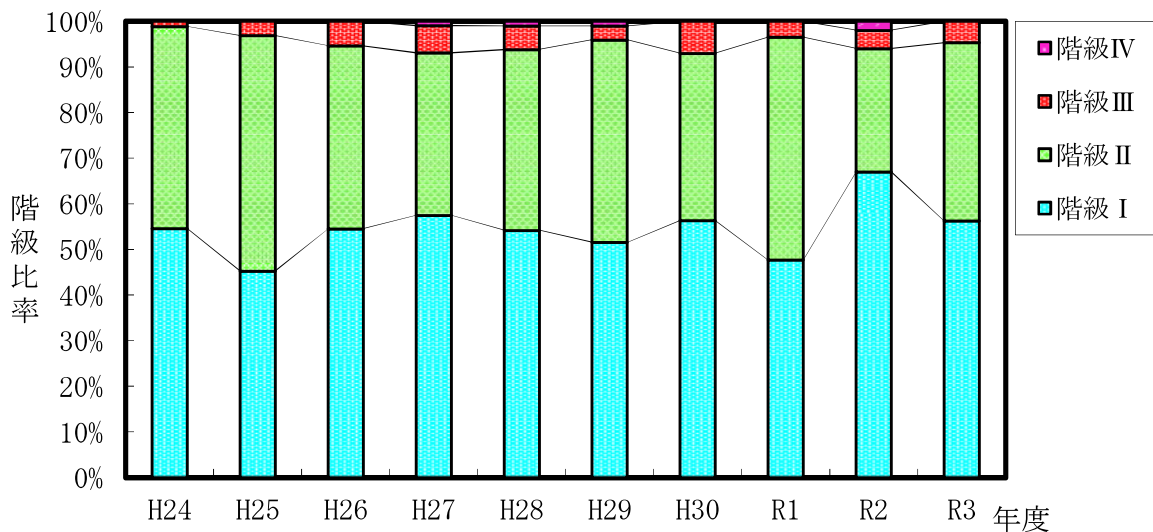


図-4 判定水質階級比率の推移

5. 河川別参加者数、参加団体等集計

表－2 水生生物調査 「令和3年度実施結果」

県名	水系名	調査 地点数 (地点)	参加 者数 (人)	参加 団体数 (団体)	判定階級 (地点)			
					I	II	III	IV
鳥取県	千代川	8	196	6	7	1	0	0
	天神川	4	121	4	4	0	0	0
	日野川	1	15	1	1	0	0	0
島根県	斐伊川	36	1428	28	18	16	2	0
	江の川下流	-	-	-	-	-	-	-
	高津川	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	吉井川	-	-	-	-	-	-	-
	旭川	-	-	-	-	-	-	-
	高梁川	-	-	-	-	-	-	-
広島県	江の川上流	5	230	5	0	5	0	0
	芦田川	4	0	0	2	1	1	0
	太田川	1	15	1	0	1	0	0
広島県・山口県	小瀬川	-	-	-	-	-	-	-
山口県	佐波川	5	111	5	4	1	0	0
合計		64	2,116	50	36	25	3	0
					56%	39%	5%	0%
前年 (令和2年度)		52	1,841	45	35	14	2	1
					67%	27%	4%	2%

※“-”は調査を実施していない水系です。

【参加団体内訳】		
小学校	33団体	1,757人
中学校	6団体	107人
高等学校	3団体	36人
その他	8団体	216人

50団体 2,116人

